

ゆっくりゆっくりハイキングで春の花を満喫



吉野山・中千本と上千本

九州からの同窓生2人を迎えて、宝塚の同窓生夫妻との5名で、葛城山と吉野山で春の花を愛でるゆっくりゆっくりハイキンに出かけた。

4月8日8時20分近鉄南大阪線尺土駅にて全員集合、近鉄で御所(ごせ)駅に行き、8時40分発のバスで葛城山ロープウェイ登山口駅に。駅前もロープウェイ車内も閑散としている。

初春の息吹の中、春の花々を愛でながら

9時過ぎ、雨もよいの空だが、自然研究路に足を踏み出す。ブナなど落葉樹はまだ裸のまま、その枝に寄生するヤドリギがいかに居心地悪そう。しかし林下ではニワトコが花芽を膨らませ、スマレやキイチゴが花を開いている。

カタクリもショウジョウバカマもたくさんの蕾を見せて

ウグイスやシジュウガラのさえずりが聞こえ、キツツキのドラミングが遠近(おちこち)から響いてくる。林の中を緩やかに下っていく。お目当てのカタクリもショウジョウバカマもたくさんのつぼみを見せていて、いっせい開花準備中の風情だが、数日前の寒の戻りに身をすくめたままのようだ。それでもいくつかは花を開いており、遠来の客たちは「こんなにたくさんの花が見られて--」と喜んでくれた。

登山口駅近くのお寺も花がいっぱい

ロープウェイで下山したが、シーズンオフ(この山の売りは5月のツツジなのだ)でバスの待ち時間が一時間余もできた。近くの曹洞宗・不動寺の境内に上り、ハナモモ、シモクレン、シデコブシ、各種ツツジ、キランソウなどの花々を楽しんだ。

夕食時の賑やかな団らん

この日は橿原神宮前駅付近のホテルに投宿。近くの小料理屋で夕食を食べながら、同窓生らの動向、これまで山行を共にした山々、その行程でのエピソードとその後日談など、縦横無尽に語り合っって旧交を温めあった。

88歳までは続けよう

今年82歳の仲間たちだが、それぞれから登りたい山の名などが出され、この「ゆっくりゆっくりハイキング」を88歳までは続けようとの提案もなされた。

病気などになってはおられない。

←ショウジョウバカマ(葛城山)



↑ヤマエンゴサク(吉野山)



多くの老若男女がサクラを求めて

翌9日、朝7時の朝食をすませて、近鉄吉野行き急行で吉野山に。列車は明日香村、高取町、吉野郡の町々などを通っていくのだが、沿線どこでも桜が満開、車窓からそれらを楽しみながらも、吉野山での開花状況がどうだろうかと、思いが先走ってしまう。

さすが!! 天下の吉野山 一目千本の絶景

終点の吉野駅に着いた。今にも一雨来そうな空模様にも関わらず、駅前には多くの人、車でいっぱい。バス待ちの長い列を横目にして、ケーブルカーに乗り込む。

日本最古の現役ケーブルカー

機械遺産としても登録されているこのケーブルカーは下千本と呼ばれる桜の樹々の間を3分間昇り、千本口駅に到着。ここも人が溢れている。外国人も少なく



ない。旅館、土産物店、↑吉水院の「一目千本」で食堂などが軒を連ねる中に、世界遺産の神社・仏閣、遺跡があり、それらを包むようにサクラが下→中→上→奥と咲き継がれていく。

窓から中千本、上千本を眺めながら昼食

昔、源義経が身を寄せ、南北朝時代には南朝秘史の舞台ともなった吉水院の境内は「一目千本」と言われる桜の名展望所。中千本、上千本の満開の様子が一望のもと。かすかにもやっているのも一興。多くの人々が、カメラを構え、スマホをかざして撮影に余念がない。

勝手社(静御前が義経のために舞を舞ったとの伝説がある)の近くの店で、谷を隔ててひろがる桜の連なりを観ながら昼食。↓コブシ(葛城山)



↑吉野山・蔵王堂で

今年1月以来の再会。気の置けない同窓生仲間の花見ハイキング。

次回会えるのは、いつ、どこでだろう。それをも楽しみにもうしばらくは生き延びようと思う。

読者の皆様も、どうかお付き合いのほどを。



同行の皆さんにお詫び

今回、この号には同行の皆さんの撮影画像をのせるつもりで、何点もの画像を送っていただきました。が私のパソコン不慣れのために掲載することができませんでした。お詫びします。

健康まつりにご参加下さい
5月19日 10時~15時
JR大和高田駅東広場など
私も現地に居ます。